

414
A 2433



新募公債証書發行規則

此公債ハ明治十一年。月太政官第 號布告ノ旨

趣ニ基キ要用ノ金額ヲ募集スル為メ起ス可ニ

シテ是ヲ大日本政府ノ公債トシテ各債主ヘハ

此公債証書ヲ交付シ年限ヲ定メラ之ヲ償却ス

ルニ付大藏省ニ於テ其委任ヲ受ケ制定シタル條々

左ノ如シ

第一條 公債証書ノ元高種類
並利息ノ制限ヲ示ス

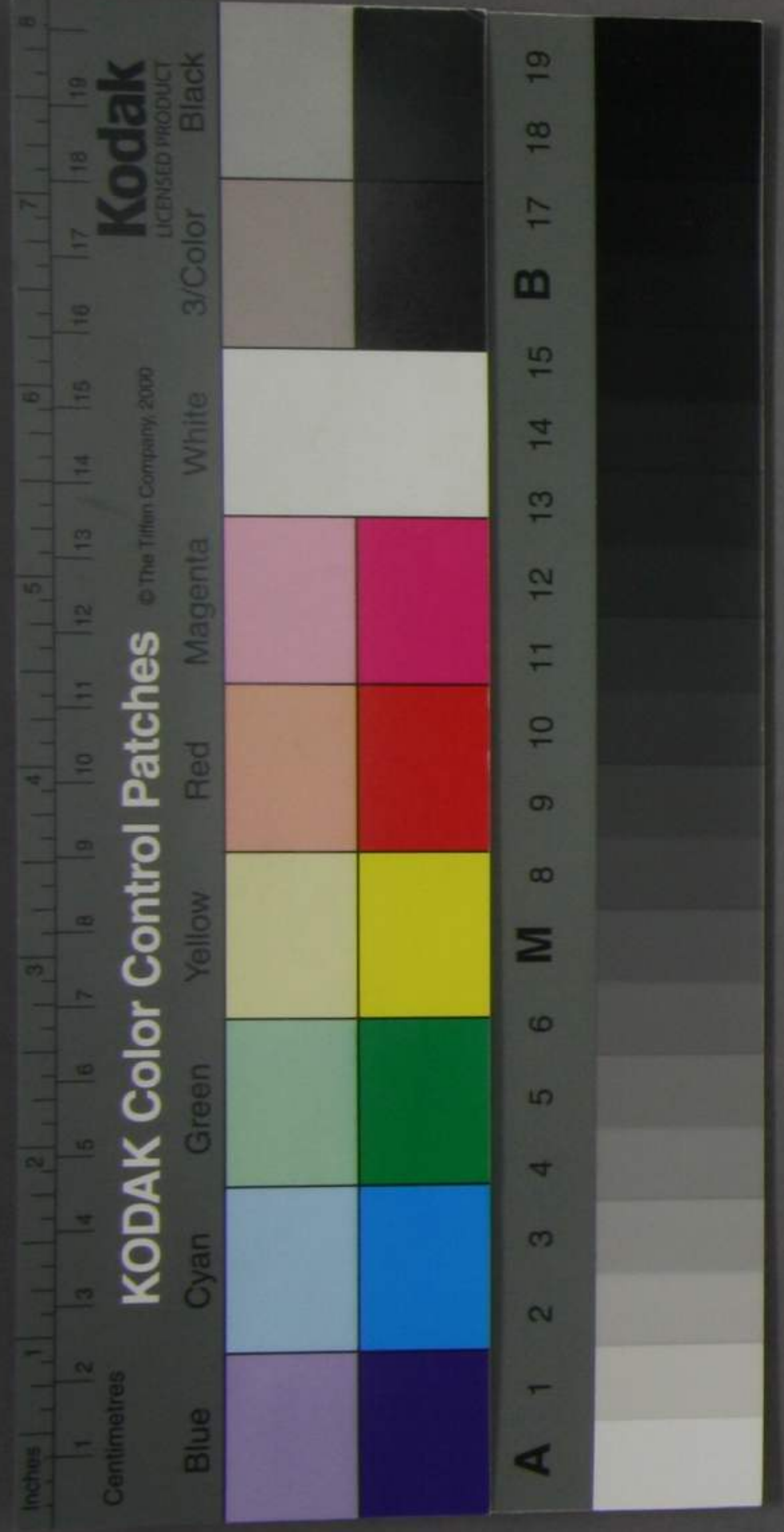
第一節 此公債ノ元高ハ壹千貳百五拾万圓ニシテ

年六厘ノ利付トシ其元金ハ 箇年間据置 箇

年月(即チ明治十一年)ヨリ向ニ 箇年ヲ限リ(即チ

明治三十五年迄)毎年抽籤ノ方法ヲ以テ其金一

大正十一年四月
大隈侯爵
贈月



拂戻スベキ証書ノ記號番號ヲ公定シ其割合ニ
 隨テ之ヲ拂戻スベシ而メ其利息ハ(第二條第二
 節但書ノ分ヲ除キ)出金皆済ノ後(即チ明治十二年
 ヲリ明治三十五年迄毎年兩度即チ六月十二月ニ
 之ヲ拂戻スベシ本文全額ハ總テ大藏省ノ都合ニヨリ金
 銀貸又ハ紙幣ヲ以テ之ヲ下渡スベシ
 但明治十六年ヨリ抽籤法ヲ以テ元金ヲ拂戻
 スニ當リテハ年六厘ノ利息月割ヲ以テ右抽
 籤法ヲ行ヒ月迄ノ分下ケ渡スベシ

第二節 此公債証書面ノ金高ヲ千円五百圓百
 圓五拾圓ノ四種ニ區別シ利息ノ小札付トス而メ
 証書ニ所持主ノ名ヲ記サズ故ニ管廳ノ捺印ヲ
 受クルニ及バズ秋祿金祿ノ公債証書類ト公別種ニシテ
 譲渡買賣トモ白換ノ幣ナシモノトス
 譲渡買賣等便利ナルモノトス

但本文利札ハ每半年利息渡シ方ヲ取ル
 銀行ニテ切取ルモノトス

第二條 募債送金等
 概器ヲ示ス

第一節 此公債ノ募集ハ每年元利金五渡方トモ
 都テ第一國立銀行及ヒ三井銀行ニ委任シテ
 取扱ハシクルガ故ニ申込ノ手續引受ノ實高期限場所
 並每半年利息及ヒ抽籤ニ當リシ元金等渡シ方其
 他必要ノ件々右兩銀行本店若ハ支店及ヒ其取引
 仲間等ヨリ追テ新聞紙等ヲ以テ廣告及フベシ

第二節 募リニ應シ出金スルノ時期都合四回ト定ムル
 左ノ如シ

- 第一回出金 十一年八月限リ
- 第二回出金 同年十二月限リ

第三回出金

十二年二月限

第四回出金

同年五月限

但第四回迄出金ノ利息ハ其出金高ニ準シ年六朱ノ割合ナル日割ヲ以テ之ヲ拂渡スベシ

第三節

右四回ノ内第一回出金ハ兩銀行ノ受取書

ヲ共ヘ第二回第三回ハ其都度假受取証券ヲ交付シ第四回ニ至リ此公債証券引換ニ交

付スヘシ

第四節 暮リニ應シ出入金スル者ハ右出入金ノ定期

第一回八月以前ニ拂入ルルカトモ皆同ニ都テ定期ニ

先ダテ拂入ルル者ニハ其拂入レ高ニ對シ月割ヲ以テ一箇年五分ノ割合ヲ以テ利息ニ割引ニシテ拂入レシ

ムベシ 例ヘハ第一回ニ於テ第二回ノ分ヲモ拂入ルルハ第二回迄ノ月數即チ八月ヨリ十二月迄四箇月分年五分

分ノ利息ヲ算出

引キテ拂入レシム

其月十五日以前

十五日以後出入

右ノ如

第五節 第一回ノ出金相済ニ更ニ第二回若クハ第三回迄四

回ノ出入金ヲ怠リ或ハ故無クシテ之レカ定期ヲ愆マツ者ハ其以前差出シタル金額ハ當人ノ損失ニ歸セシメテ返典セザルベシ

第六節

出入金未ダ皆済ニ至ラズ此公債証券ヲ

受取ラザル以前タリ正當人ノ都合ニ依リ第二回ヨリ交付シタル假受取証券ヲ賣買後受スルハ外國人勝手タルベシ尤右証券面ノ金高ハ之ヲ分割スルヲ得ズ必キ其全數ニ限ルベシ

第三回出金

十二年二月限

第四回出金

同年五月限

但第四回迄出金ノ利息ハ其出金高ニ準シ年六米ノ割合ナル日割ヲ以テ之ヲ拂渡スベシ

第三節

右四回ノ内第一回出金ハ兩銀行ノ受取書

ヲ共ニ第二回第三回ハ其都度假受取証券ヲ交付シ第四回ニ至リ此公債証券書ヲ引換ニ交

付スヘシ

第四節

暮リニ應シ出入金スル者ハ右出入金ノ定期

第一回八月以前ニ拂入ルルカトモ皆同ニ都テ定期ニ

先ダテ拂入ル者ニ其拂入レ高ニ對シ月割ヲ以テ一箇年五分ノ割合ヲ以テ利息ニ割列ニシテ拂入レ

ルベシ例ハ第一回ニ於テ第二回ノ合ラモ拂入ルルハ第二回迄ノ月數即チ八月ヨリ十二月迄四箇月合年五分

合ノ利息ヲ算出シ其拂入レ高ノ内ニテ其算出高ヲ尤月割ハ引去リ拂入レシム第ニ回以下モ皆之ニ準ス

其月十五日以前ノ出金ナレハ一箇月合ノ割列ヲ為シ十五日以後出入金ノ合ハ割列ヲ為スラ得ズ

第五節

右ノ如ク四回ニ分賦ニシテ拂込マシムルニ付若シ

第一回ノ出金相済ニ更ニ第二回若クハ第三回第四回ノ出入金ヲ怠リ或ハ故無クシテ之レカ定期ヲ愆マツ

者ハ其以前差出シタル金額ハ當人ノ損失ニ歸セシメテ返典セザルベシ

第六節

出入金未ダ皆済ニ至ラズ此公債証券書ヲ

受取ラザル以前タリ正當人ノ都合ニ依リ第二回ヨリ交付シタル假受取証券ヲ賣買後受スルハ外國人勝手タルベシ尤右証券面ノ入金高ハ之ヲ分割スルヲ得ズ必キ其全數ニ限ルベシ

此月割
但本
月割

四回出金

十二年二月限

三回出金

同年五月限

四回出金ノ利息ハ其出金高ニ準シ年
割合ナル日割ヲ以テ之ヲ拂渡スベシ

四回ノ内第一回出金ハ兩銀行ノ受取書

四第三回ハ其都度假受取証券ヲ

回ニ至リ此公債証券ヲ引換ニ交

リニ應シ出入正スル者ハ右出入正ノ定期

以前ニ拂入ルルカトモ皆同シ都テ定期ニ

者ニハ其拂入レ高ニ對シ月割ヲ以テ

割合ヲ以テ利息ヲ割引ニシテ拂入レシ

第一回ニ於テ第二回ノ合テモ拂入ルルハ第二
月數即チ八月ヨリ十二月迄四箇月合年五

出シ其拂入レ高ノ内ニテ其算出高ヲ尤月割ハ
レハ第二回以下モ皆同シニ準ス

前ノ出金ナレハ一箇月合ノ割引ヲ為シ

如ク四回ニ分賦ニシテ拂込マシタルニ付若シ

至相済ニ更ニ第二回差クハ第三回第四

回リ或ハ故無クシテ之レカ定期ヲ愆マツ

差出シタル至額ハ當人ノ損失ニ歸セシメ

ハシ

至未カ皆済ニ至ラズ此公債証券ヲ

前タリ正當人ノ都合ニ依リ第二回ヨリ

受取証券ヲ賣買後受スルハ外國人勝

右証券面ノ至高ハ之ヲ分割スルヲ得ズ

ニ限ルベシ

大蔵省

此月割法ハ慶例ニシテ第一條第一節但書ノ
月割ト稱觸ルル者左ノ但書ヲ茲ニ加ヘテ
但本文月割ノ法ハ第一條第一節但書ノ
月割法トハ別異ナルモノナリ

第七節 若ハ申込出金高募集見込高ヨリ逆
過スルハ各差入金歩合ヲ以て返戻スルアルヘシト雖
且各出入金人ニ於テハ之ヲ拒ルノ權ナカルベシ

第三條 無記名証書ノ毀損 紛失改竄ノ時

第一節 此公債証書ハ銀行記入シテ通貨ト同様ノ
効用ヲ為スヘキモノニ付 賣買轉手ノ頻繁ナル
ヨリ自欺垢付或ハ少々ノ損シ等アリトモ入金高及
主要ノ印部等ニ損害ナク正真ノ証書タルヲ保
認スベキハ當然ノ規則ニ隨ヒ元利金渡方ヲ為
ヘキニ付疑念ナク通用スベシ尤燒損シ又ハ入金高等ノ
部合ヲ毀損シ或ハ裏附等ハ速ニ其事實ヲ管
廳ニ具狀シ管廳ニテハ寫ト推糾シ品依リテハ
裁判ノ上相當ノ罰金ヲ命ズベシ但過誤ニ相違

二節 紛失又ハ盜難

流燒失トシ 証書列

換ヲ為サズ尤紛失又ハ盜難ニ係ルハ速ニ其証
書ノ種類金高番記號等詳記シ其管廳へ届
出ツベシ管廳ニテハ管内へ布達シ置キ之ヲ大藏者
へ申立同省ニ於テ其申ヲ布達シテ該証書ノ取
引通用ヲ禁示セシムベシ

第三節 若シ右取引通用禁示ノ証書發見
スルコトアラハ速ニ其事由ヲ管廳へ具狀スベシ管
廳ヨリハ之ヲ大藏者ニ聞申スベシ大藏者ニ於テ
ハ其旨ヲ布達シテ之ヲ取引通用ノ禁示ヲ解ク
ベシ

第四條 記名公債証書ニ變改スルニシテ續
并變改ニシテ後ノ規則ヲ示ス

第七節 若ハ申込出金高募集見込高ヨリ逆過スルハ各差入金歩合ヲ以テ返戻スルアルヘシト雖
且各出金人ニ於テハ之ヲ拒ムノ權ナカルベシ

第三條 無記名証券書ノ毀損 紛失 改竄 手続
等得方ヲ示ス

第一節 此公債証券書ハ記名式ヲ通貨ト同様ノ
効用ヲ為スヘキモノニ付 賣買轉手ノ頻繁ナル
ヨリ自然垢付或ハ少々ノ損シ等アリトモ入金高及ヒ
主要ノ印部等ニ損害ナク正真ノ証券タルヲ保
認スベキハ當然ノ規則ニ隨ヒ元利金渡方ヲ為
ヘキニ付疑念ナク通用スベシ 尤燒損シ又ハ入金高等ノ
部分ヲ毀損シ或ハ裏附等ハ速ニ其事實ヲ管
廳ニ具狀シ管廳ニテハ寫ト推糾シ品目依リテハ
裁判ノ上相當ノ罰金ヲ命ズベシ 但過誤ニ相違

大藏省ニ於テハ
新証券ヲ設

ナキ合ハ口書等相添ヘ証券ノ引換ヲ為スベシ
第二節 紛失又ハ盜難及流燒失トシ証券引

換ヲ為サズ尤紛失又ハ盜難ニ係ルハ速ニ其証
書ノ種類金高番記號等詳記シ其管廳へ届
出ツベシ 管廳ニテハ管内へ布達シ置キ之ヲ大藏省
へ申立同省ニ於テ其申ヲ布達シテ該証券ノ取
引通用ヲ禁示セシムベシ

第三節 若シ右取引通用禁示ノ証券發見
スルイアラハ速ニ其事由ヲ管廳へ具狀スベシ 管
廳ヨリハ之ヲ大藏省ニ聞申スベシ 大藏省ニ於テ
ハ其旨ヲ布達シテ之ヲ取引通用ノ禁示ヲ解ク
ベシ

第四條 記名公債証券書ニ變改スルニシテ續
并變改セシ以後ノ規則ヲ示ス

向募集見込高ヨリ逆
以テ返戻スルアルヘシト雖
之ノ権ナカルベシ

損紛失改スル手續
記ルレシト通貨ト同様ノ
買轉手ノ頻繁ナル
於シ等アリトモ人至高及
ク正真ノ証書タルヲ保
シ元利入金渡方ヲ為
心燒損シ又ハ至高等ノ
事速ニ其事實ヲ管
推糾シ品依リテハ
命ズベシ但過誤ニ相違

書ノ引換ヲシフベシ
流焼失トテ証書引
難ニ係ルハ速ニ其証
詳記シ其管廳へ届
布達シ置キ之ヲ大藏省
布達シテ該証書ノ取
引禁示ノ証書發見
管廳へ具状スベシ管
申スベシ大藏省ニ於テ
引通用ノ禁示ヲ解ク

以証書ニ變改スルニ續
以後ノ規則ヲ示ス

大藏省ニ於テハ其過誤ニ相違ナキノ證據明白ナルヲ兼認シタル上ニ更ニ
新証書ヲ該管廳ニ送付シテ其出人ニ交シムベシ

第一節 此公債証書ハ本来無記名ニシテ賣買
後受便利ナルハ勿論ナリ然レモ本人ノ請願ニ依
リテハ之ヲ變改シテ記名証書ト為スベキモノニ付
入テ爰ニ記名証書ニ變改スル手續ト記名ニ變改セ
ルモノニ於テ無記名証書ノ規則ト相異ナル所ノ規
則ヲ掲叙スルヲ左ノ如シ

第二節

^{無記名}公債

証書ヲ記名ニ變改スルハ証書ヲ

引換ユルニ非ス即チ本條第四節ノ規則ニ照準シ
別取扱期滿トス以テ記名スルモノトス

第三節

右記名ヲ請願スルニハ前第二條第四回

出金定期ヨリ七八十日乃至五十日前其旨ヲ兩銀行
ノ内ニ申込銀行ヨリ管廳へ具狀シ管廳ヨリ大藏省ニ
具申スベキモノトス

但一旦無記名証書ヲ引受テ置違テ記名ニ改メシ
ト欲スル者ハ該証書ニ其記號番
類枚數等ノ目錄書及ビ願書ヲ添へ管廳へ
申立ベシ管廳ヨリ願入へ証書ノ受取書ヲ
渡シ置き之ヲ大藏省へ具申スベシ

第四節

前節ノ如ク大藏省へ具申ノ上ハ同省ニ於テ

該証書面ニ其記名タル極印ヲ鈐シ之ヲ簿冊ニ登記
シ置再ヒ之ヲ其管廳へ送付ス管廳ニテハ該証書ハ
全高記號番號枚數及ビ所有主ノ住所姓名年號
月日等ヲ簿冊ニ登記シ該証書ニ記名紙ヲ糊附シ
該廳ノ繼印ヲ為シ所有主ノ住所姓名ヲ記入シ該廳
ノ割印及ビ公債掛檢印ヲ捺印シテ之ヲ所
有主ニ附與スベシ

但記名紙ハ地方官ノ見込豫メ之ヲ大藏省ヨリ請求シ置キモ勝手タルベシ

第五節

前節ノ如ク記名証書ヲ既記名証書ニ變

改シタル上ハ之ヲ賣買授受シ又ハ紛失盜難及シ流
燒失等總テ明治八年太政官第九十五號布告
改正新旧公債証書發行條例第六條第七條第八條
第九條第十條ニ照準適用スルニ尤該條例ヲ此記
名公債証書ニ適用スル場合ニ於テハ該條例中改換
スベキ文字并廉々ヲ掲示スルニ次節ヲ如ク

但元利金並渡方等ノ手續ハ無記名証書ト
同様ナルモノトス尤紛失盜難流燒失等係ル
元利金並渡方ノ廉ハ改正新旧公債ニ當發行
條例中第九條ニ照準スルモノトス

第六節

右改正新旧公債發行條例第六條ヨリ

第十條迄ノ中ニ「新旧公債証書」トアル文字ハ都テ
「此記名公債証書」ト改メシ同第六條第二節ニ「証書
裏面ハ形ノ通^{裏面}」同條第三節ニ「証書裏面ハ形ノ如
ク^{裏面}」トアルハ「記名紙」ヘホ^{附スル}「^{形ノ通}」ト改メ同
條第十二節ニ「毎年十二月一日ヨリ十五日マテニ新公債利
息並旧公債元金年賦」ノ一段ヲ「毎年六月十二月ニ此
記名公債ノ利息入返」ト改メ「十月一日ヨリ十二月十五日迄」ト
アルハ「五月一日ヨリ六月十五日迄十一月一日ヨリ十二月十五日迄」
ト改メシ同第八條第一節ニ「裏面記名ノ場所」トアルハ
「記名紙餘梓」ト改メ「証書ノ^{裏面}」トアルハ「記名紙」ノ
^{裏面}」ト改メシ

第五條

証書ノ裏面ニ
記名ノ處分ヲ示ス

第一節

此公債証書ヲ私ニ剥去リ又ハ切裂キ
又ハ塗抹シ孔ヲ穿テ糊附ニスル等ノ事ヲナスベカ
ラズ差シ犯ス者アレハ裁判ノ上入金高十倍以下ノ
罰入主ヲ入命スベシ

第二節

此証書ヲ贋造シ又ハ人ヲシテ贋造セシメ
又ハ人ノ贋造スルヲ助ケ又ハ贋造ト知リテ通用
シ又ハ証書ノ圖画文字ヲ變換シ又ハ人ヲシテ變
換セシメ又ハ變換セシモノト知リテ之ヲ通用シ其他
似寄ノ板版紙品等ヲ所持スル者ハ都テ裁判
ノ上其法ニ處スベシ

第六條

第一節

政府ノ都合ニ依リ要用ノ丁アレハ何時
テモ此規則ヲ増補シ又ハ之ヲ改正スベシ

第二節

右増補改正等アルキハ速ニ其旨趣ヲ
廣告スベシ

明治十一年 月 日

大藏省

